
E.G.O.国物語 外伝 ~私が主人公だよ旦那様！？~

文

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

E・G・O・国物語 外伝 ～私が主人公だよ旦那様！？～

【コード】

N6117K

【作者名】

文

【あらすじ】

これはディンとチェリーが結婚する少し前のお話。きつと色々あるのです。

(前書き)

私がチエリーで

黒衣の僧侶がデインですよ><b

説明不足ですいませんm | | (m

小さな村の小さなうち私はそこに住んでいた。

「ふう……とりあえず家事は終了かな……。」

私はそう言つとそつと窓の外見た。

夜空いっぱいだ……。

「……あの時も……こんな星空だったな。こんなに綺麗じゃなかったけど。」

私はそつと目を閉じた。

ここは汚れた街、世間で言うスラム街である。

毎日どこかで人が殺されたり喧嘩があつのは当たり前だ。

そんな街の酒場に私は居た。

「マスター？なんかいい情報は？」

「……。」

「解つたわ、はい。」

私はそつとお金を出した、この街のルールは「金」だ。

金さえあれば苦労はないのがこの街。

「ヤオヨロズの残党が国々に散らばってるらしい……その中には黒衣の僧侶も居るらしい。」

「黒衣の僧侶！？それは事実なの……？」

マスターはそつと手を差し伸べた。

「……これは別料金だ。」

「はあ……サービスしてくれないかしら？……あいつだけは許せないの……。」

シャドゥ・プリステル

黒衣の僧侶……両親の仇、ずーっと……探してた、マスターにはそのことを話していた。

マスターは奥へ行き、しばらくすると一枚の紙を机に置いた。

「独り言だが、この紙には黒衣の僧侶の足取りが書いてある、すべ

て信用できる情報だ。だが私には仇打ちする気もなければ、ここから出て行く気もない、この紙はゴミだな……。」

そう言うと再び奥へ行ってしまった。

「……ありがとう……マスター……。」

私は紙をしまうと酒場を後にした。

……何日間歩いただろう？

もう森の中を何日間も彷徨っていた。

「うう……迷っちゃったのかな……？」

途方に暮れていた時、遠くから剣と剣が交わる音がした。

……この剣の音は……。

何かを思うように私は音がする方に走った。

「……あれは……エンジヨイの兵士？……それに……黒衣の僧侶！？」

私は両親のことを思い出した。

父はプロの傭兵ですごく強かった。

母はすごい魔法使いで魔法をいくつも教えてもらった。

「……そんな人をあいつは殺したんだ……あんな奴にやられるわけない。」

私はそんな思いがあった、あいつだけは私が殺す、そんな思いがあった。

私がそんな思いで戦いを見ていた、しかし私の予想は外れた。

黒衣の僧侶が明らかに押されていた。

そして次の瞬間、黒衣の僧侶の手から剣が離れ、その場に倒れてしまった。

その時エンジヨイの兵士が剣を突き付けながら口を開いた。

「黒衣の男……お前はなんのために人を斬る？地位の為か？金の為か？」

少しの間、沈黙が流れた。

そして黒衣の僧侶はそっと口を開いた。

「斬った奴らのために……。」

声はとぎれとぎれだ、しかし次の言葉はしっかり聞こえた。

「斬った奴らの為に平和な世界を作るためだ！それだけじゃ俺の罪はなくなりはない、だけど……それが俺にできる罪滅ぼしなんだよ……誰も傷つかないそんな世界を……。」

そこまでで声は聞こえなくなった、しかし私の頬には涙が流れていた。

エンジョイの兵士は軽く笑うと、黒衣の僧侶を斬った。

そして私の方に顔を向けた。

「気づかれた……？」

……私は沈黙を続けた。

男は再び後ろを向くとゆっくり話始めた。

「……フツ……暗殺なら少し待つんだな……。」

「えっ……？」

私は思わず声を出してしまった。

しかし男は話を続けた。

「お前が監視するんだ……。こいつが作る平和な世界を……そしてできなかつたらお前が殺せ。」

そう男は呟くと森の奥へ消えてっていった。

それを私は黙って見ていた。

「……平和な世界か……。フツ……そうね……最後まで見ていてあげましょうか……。」

私は倒れていた黒衣の僧侶に応急処置を施しておぶつてスラムの街に向かった。

辺りはすっかり真つ暗だ空いっぱい星空、前より少しだけ明るく見えた。

スラム街につくと黒衣の僧侶を宿屋のベットに寝かせ、酒場へ向かった。

「……マスター？最後の依頼だよ……家を二人でゆっくり暮らせ

る家をひとつ。」

その時マスターが少し笑った気がした。

「・・・報酬は？高いぞ？・・・なにしろ家だからな・・・。」

「ふふっ・・・平和な世界・・・それが報酬よ。」

私は笑いながら言った、しかしマスターはまじめな顔をして鍵を差し出した。

そして話し始めた。

「平和な世界・・・いい報酬だ・・・行け・・・もうすぐ追手が来るだろう、地図はこの前渡した紙の裏に書いてある、家財道具もすべてあるからな・・・。」

「・・・ありがとう・・・きつと、作るよ・・・あいつはね・・・。」

最後にマスターと顔を見合わせ笑いあった。

そして私は黒衣の僧侶を担いでこの街を後にした。

辺りは暗い、しかし星達が私を優しく照らしてる・・・。

.....

ここは小さな村の小さなおうち。

私は閉じた目をそっと開いた。

「もう、こんな時間。旦那様が帰ってきちゃう。」

復讐しかなかった頃と違って今は幸せが満ち溢れている。

玄関の方から扉が開く音がした。

その音を聞くと私は走って玄関に向かった。

めでたし、めでたし。

(後書き)

・・・駄作ですね・初めてなんです。
見逃してください(逃)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6117k/>

E.G.O.国物語 外伝 ~私が主人公だよ旦那様！？~

2010年10月11日10時50分発行